

学習指導案

北海道名寄高等学校

指導者 職・氏名 教諭 濱中 聡志

指導日時・教室 令和4年12月 2日(金) 5時限目 教室名 1年B組教室
対象生徒・集団 1年B組 35人(内訳 男子15人 女子20人)
科目名 公共(単位数 2)
使用教科書 詳述 公共(実教出版)

1 単元(題材)名 日本の安全保障と防衛
(大項目B「(2)主として政治に関わる事項」の「我が国の安全保障と防衛」)

2 単元の目標

知識・技能

- ・我が国の安全保障と防衛を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。
- ・現代社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につける。

思考・判断・表現

- ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って表現する。

主体的に学習に取り組む態度

- ・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①より良い社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。</p> <p>②現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。</p>	<p>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、自他との調和を図り、共に学びあいながら主題の解決に向けて事実を基に考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p>	<p>現代社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を他者と共に学びあいながら自ら考え判断し、主体的に解決しようとしている。</p>

	学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
第一次 (4時間)	単元を貫く問い 戦争のない世界のために、国際社会の中で日本が果たすべき役割は何か。 また、日本に住む私たちにできることは何か。				
	1時間目 MQ：現代は「戦後」なのか				
	<ul style="list-style-type: none"> ・Kahootで第二次世界大戦に関するクイズ ⇒ 「太平洋戦争はどのような戦争だったのか」(10分) ・NHK 高校講座の動画(約20分)を見て問いに答える ⇒ 「太平洋戦争は日本にとってどのような戦争だったのか」 ・第二次世界大戦後、日本が関わった戦争(湾岸戦争、イラク戦争等の自衛隊派遣) ・現在の国際情勢を概観 ⇒ 「現代は「戦後」なのか」に答え、これからの学習の見通しを立てる 	●	●	●	【思】ワークシート 動画の内容から日本にとってどのような意義が合ったのかを考え、まとめることができている。 【態】ワークシート ・授業内の活動を通し、今後の学習に対する見通しを立てることができている。 ・授業を通し、示された問いから新たな問いを立てられている。
	2時間目 MQ 日本の平和主義はどのように確立してきたか				
<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法前文と第9条の構造を理解する ・第二次世界大戦終結から自衛隊創設までの流れを理解する ・憲法解釈の変化を理解する ・まとめとして憲法第9条の解釈を考える 	●	●	●	【知】単元テスト・考査 【思】ワークシート 授業の前後で憲法第9条に対する印象がどのように変化したかを表現することができている 【態】リフレクションシート 授業内での疑問や新たな問いを立てられている。	
3時間目 MQ：自衛隊の役割とは					
課題資料 自衛隊が活動している写真					

	学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
第一次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊法から自衛隊の任務について考える（防衛出動、災害派遣、国際協力） ・「ゴジラ」の出現に対して自衛隊を出動させることはできるのか ・自衛隊の武器使用が認められるのはどのような場合か考察し、まとめる 	○	●	●	<p>【知】 単元テスト・考査 自衛隊の任務について理解している。 文民統制や国家安全保障会議など軍事力の暴走を防ぐ仕組みについて理解している。</p> <p>【思】 ワークシート 自衛隊法の条文から「ゴジラ」の脅威に対してどのような行動を取ることができるか考察している。 自衛隊の活動には様々な制約があることに気づくことができている。</p> <p>【態度】 ワークシート 次回の授業へ向けての見通しを立てている。</p>
	<p>4 時間目 MQ：国際社会で求められる自衛隊の役割とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別的自衛権・集団的自衛権の違いを理解する。 <p>課題資料 日本の防衛費の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防衛費の変遷の図から読み取れる情報をまとめる。 ・国際社会で求められる自衛隊の役割の変化を理解する。 ・安倍内閣の集団的自衛権を認める解釈改憲について考察する。 ・国際社会における自衛隊の役割と憲法の条文について自分の考えをまとめる。 	○	●	●	<p>【知】 単元テスト・考査 自衛権について理解している 国際社会における自衛隊の役割の変化について理解している。</p> <p>【思】 ワークシート・単元テスト 資料から情報を読み取ることができている。 読み取った情報をまとめ、考察している。</p> <p>【態】 ワークシート・リフレクションシート 第1次の学習内容を通して、日本の安全保障について考えることができている。</p>

	学習活動	評価の観点			評価方法
		知	思	態	
第二次 (2時間)	<p>5 時間目 MQ：世界の平和を実現するために必要なことは</p> <ul style="list-style-type: none"> 核兵器についての理解を深める。 <p>課題資料 「世界の核兵器、これだけある」 (朝日新聞デジタル Web サイト)</p> <ul style="list-style-type: none"> 核軍縮に向けた条約や米口間の取組について理解する。 軍縮が進まないのはなぜか (囚人のジレンマ) 思考実験を通して軍縮を選ぶことの難しさについて考える。 		○	●	<p>【知】 単元テスト・考査 核軍縮に向けた条約や米露の取組について理解している。</p> <p>【思】 ワークシート 思考実験から軍縮を選択することの難しさについて考えることができています。</p> <p>【態】 ワークシート・リフレクションシート 授業を通して考えたことや疑問を表現できています。</p>
	<p>6 時間目 MQ：核なき世界は実現できるか 研究授業</p> <p>課題資料 オバマ大統領 プラハ演説</p> <ul style="list-style-type: none"> 思考実験 (囚人のジレンマ) 核攻撃 Ver これまでの授業内容を踏まえ、国際協調のためには何が必要か考察する。 核兵器禁止条約について理解し、なぜ日本がこの条約に参加しないのか考える。 (・問いを立てる) 		○	●	<p>【知】 単元テスト・考査</p> <p>【思】 ワークシート 前時の思考実験との違いを理解し、軍縮に向けた対話の重要性について考えることができています。</p> <p>【態】 リフレクションシート 単元を貫く問いに対する見通しを持っている。</p>
第三次 (1時間)	<p>7 時間目 MQ：世界の平和を守るために日本は何ができるか</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時に立てた問いに対する解をまとめる。 単元を貫く問いに対する解を考える。 		○	○	<p>【思】 ワークシート 単元を貫く問いに対する解を論拠をもって表現することができています。</p> <p>【態】 リフレクションシート 国際社会の中で日本が果たすべき役割について主体的に考えることができています。</p>
	<p>単元を貫く問い 戦争のない世界のために、国際社会の中で日本が果たすべき役割は何か。 また、日本に住む私たちにできることは何か。</p>				

5 指導にあたって

(1) 生徒観

各教科の授業や探究的な学習の時間等の活動から、日常的に考える作業や他者との共同作業に慣れている。生徒間の関係も良好であり、活発な意見交換ができる。考査等の成績に差はあるが、与えられた課題に対し、積極的に取り組む姿勢が見られる。一方で、おとなしい性格の生徒が多く、学習活動が活発になるまでにやや時間がかかる部分が見られる。今後、授業を通して、主権者としての見方・考え方を身につけていくことを期待している。

(2) 教材観

日本国憲法の平和主義について、過去の大戦における反省のもと成り立っていることについて理解を深めることで、その意義について考えさせたい。世界情勢の変化に伴い、我が国における防衛政策や自衛隊が果たしている役割もまた変化してきた。そうした基本事項を理解した上で、今日の国際社会における軍縮の難しさや、国際社会の中で我が国が果たすべき役割について主体的に考察し、国家間のみならず民間の交流や対話を通して信頼関係を深めることが重要であることに気づかせたい。

(3) 指導観

授業内で扱う様々な題材に対し、複数の資料からの読み取りや、問いについて考える活動を通して、一つの題材について様々な見方・考え方があること気づかせることをねらいとしている。そのため、「賛成・反対」というような二元論的な結論にとどまることのないように留意している。また、まとめにおいても授業者から「正解」を提示するのではなく、今後どのような考え方が必要なのかを解説するにとどめる。

6 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標（全7時間中の6時間目）

核軍縮について取り扱う

- ・前時の内容を踏まえ、軍縮を目指す国際協調には対話が必要であることに気づく
- ・核軍縮が進まない背景には、核抑止の考え方があることを理解する
- ・核軍縮について、国際社会において日本が果たすべき役割が何か考察する

(2) 準備・資料等

教師側：教科書、資料集、プロジェクター、マグネットスクリーン、授業プリント

生徒側：教科書、資料集、授業プリント、タブレット端末

(3) 本時の展開

時間	学習内容	教師の指導・留意点	評価の観点（評価方法）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のテーマを確認し、前時の学習内容を振り返りながら学習の見通しを立てる ・オバマ大統領のプラハ演説から国際社会が核廃絶に向けて動いていることを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のテーマを示し、本時の到達目標について説明する ・生徒が学習の見通しを持てるように留意する 	
MQ：核なき世界は実現できるか			
展開 ① 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・4人一組のグループを作り、各グループで思考実験に取り組む（5回繰り返す） ・前時の思考実験との違いを考えながら思考実験の結果についてワークシートにまとめる ・Jamboardに結果を入力し共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを簡潔に説明し、前時の思考実験との違いを説明する ・対話・交渉を心がけるよう促す ・交渉が長引きゲームが進まないことがないように留意する 	<p>【態】グループワーク</p> <p>【思】思考実験の結果について、なぜそのような結果になったのか考察している（ワークシートの記述・Jamboardの発表）</p>
展開 ② 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・核兵器禁止条約について理解する ・なぜ日本が参加していないのか理由を考え、ワークシートに書き出す 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を踏まえさせる ・核兵器禁止条約に対する日本政府の立場やアメリカの核の傘について簡潔に説明する 	<p>【思】これまでの授業内容を踏まえて、国際社会における日本の立場を含めた考察ができています（ワークシートの記述）</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・次回に向けて、単元を貫く問いに対する疑問点等をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く問いについて改めて確認させる 	<p>【態】単元を通して、最初に示された問いに対する見通しをもっている（リフレクションシート）</p>

(4) 評価資料

- (ア) ワークシート
- (イ) Jamboardの資料及び発表
- (ウ) リフレクションシート